



天文資料

2023年 3月号

令和4年度 第12号 (3月号)

令和5年2月26日

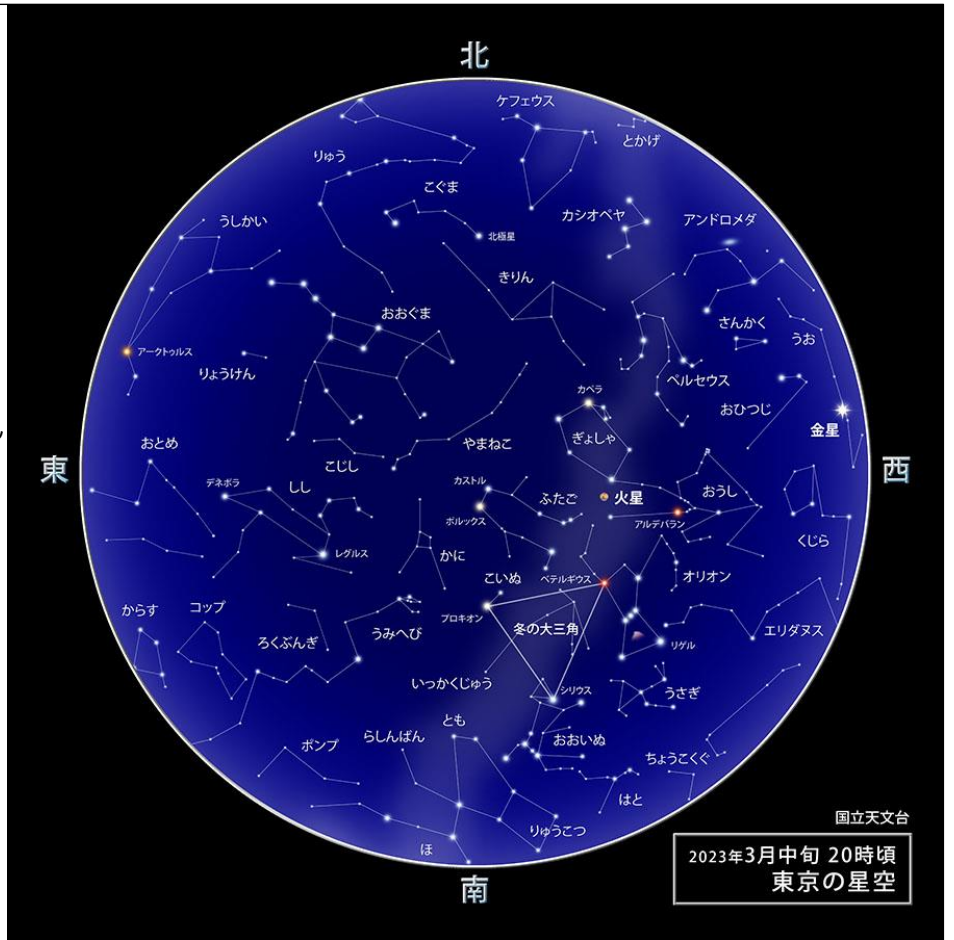
発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<宵の明「星金星」>

ふゆ せいざ ぜんはんや にし かたむ
冬の星座は前半夜のうちに西に傾
いていき、しし座を筆頭に春の星座が
よぞら か あが よる じ
夜空を駆け上っていきます。夜の時
かん なが きせつ ひる じかん なが
間が長い季節から、昼の時間が長い
きせつ ぎゃくてん がつ にち しゅん
季節へと逆転していく3月。21日に春
ぶん むか ひ ひ おそ ひ
分を迎えます。日に日に遅くなる日の
い あと にし そら よい みょうじょう きんせい
入りの後、西の空で「宵の明星」金星
が徐々に高度を上げ、目立つように
なつてきます。2日には、木星と望遠
きょう どういつ し や み せつきん
鏡で同一視野に見えるほど接近しま



す。24日には月と接近し、九州の一部地域と沖縄では金星食が見られます。宵の天頂
ちか そら さくねんまつちきゅう せつきん あか かせい み
近くの空には、昨年末地球に接近して明るくなった火星がまだよく見えています。

- ・ 6日 啓蟄(太陽黄経345度)
- ・ 7日 満月
- ・ 15日 下弦
- ・ 18日 彼岸の入り
- ・ 21日 春分の日/春分(太陽黄経0度)
- ・ 22日 新月
- ・ 24日 金星食
- ・ 29日 上弦



天体観望会のお知らせ

3月11日(土)18:30～ (2月25日(土)9:00から受付開始)

電話予約制(23-1517) 定員40名

当日が雨天、曇天の場合はプラネタリウムで星座解説を行います。

観覧料: 小中学生150円、高校生以上320円